

脱炭素・GREEN×EXPO・みどり環境・資源循環委員会記録
【 速 報 版 】

令和8年2月16日開会

速報版

- ・この会議録は録音を文字起こしした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なもののため、今後修正されることがあります。
- ・正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横 浜 市 会

開会時刻 午前10時00分

◎ 開会宣告

- 大桑正貴委員長 これより委員会を開会いたします。
欠席委員は鴨志田委員です。
では、上着の着用は御自由に願います。



◎ 市第137号議案（関係部分）及び市第146号議案（関係部分）の審査、採決

- 大桑正貴委員長 脱炭素・GREEN×EXPO推進局関係に入ります。
審査に入ります前に、1月1日付で職員の異動がありましたので、折居局長より職員の異動の紹介があります。願います。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 脱炭素・GREEN×EXPO推進局です。どうぞよろしく願います。
1月1日付で人事異動のありました部長級以上の職員を御紹介させていただきます。

（職員紹介）

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 以上でございます。どうぞよろしく願います。
- 大桑正貴委員長 ありがとうございました。
それでは、審査に入ります。
なお、当局からの発言に際しては、着座のままで願います。
初めに、市第137号議案関係部分及び市第146号議案関係部分については、説明の都合上、2件を一括議題に供します。

市第137号議案 令和7年度横浜市一般会計補正予算（第7号）（関係部分）

市第146号議案 令和7年度横浜市市街地開発事業費会計補正予算（第1号）（関係部分）

- 大桑正貴委員長 当局の説明を求めます。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 市第137号議案令和7年度横浜市一般会計補正予算及び市第146号議案令和7年度横浜市市街地開発事業費会計補正予算、いずれも脱炭素・GREEN×EXPO推進局関係部分につきまして御説明をいたします。

議案書では、複数のページにわたり記載されておりますので、本日は、当局関係部分をまとめました資料を用いて御説明いたします。

資料1を御覧ください。1ページにお進みください。

1、一般会計歳入歳出予算補正のうち、（1）国補正予算などを踏まえた施設整備についてでございます。
いずれも8年度予算の一部前倒し部分になります。公共施設の脱炭素化推進事業におきまして、市役所RE100推進事業における区庁舎のLED照明設備費として5415万円を、仮称旧上瀬谷通信施設公園整備事において、公園遠路舗装、植栽等の整備費といたしまして9億9000万円を、旧上瀬谷通信施設地区周辺道路整備事業におきまして、市道五貫目第33号線、八王子街道及び環状4号線における整備費といたしまして17億

5327万3000円を、交通輸送対策事業におきまして、瀬谷駅北口駅前広場及び環状4号線歩道における公共空間再整備費として9億6600万円、市街地開発事業費会計繰出金におきまして、特別会計の事業費に対する繰出金として95万円をそれぞれ増額いたします。

2ページにお進みください。

(2) 事業の執行見込みに合わせた整理補正についてでございます。

ア、事業費の増額補正といたしまして、特別会計への人件費繰出金を含めた職員人件費において、給与改定等に伴い3931万3000円を、GREEN×EXPO広報・推進活動事業におきまして、寄附金の増に伴いますGREEN×EXPO 2027推進基金への積立金といたしまして9億9500万円、GREEN×EXPO会場建設費等事業におきまして、同様に22億1300万円、旧上瀬谷通信施設地区周辺道路整備事業におきまして、国の当初予算を踏まえた国庫補助事業の認証増に伴いまして3億7409万1000円をそれぞれ増額いたします。

3ページにお進みください。

イ、事業費の減額補正等でございます。

脱炭素先行地域推進事業におきまして、補助申請件数の減等に伴い2億1586万6000円、次世代自動車普及促進事業におきまして、同様に9393万6000円、水素次世代エネルギー等利活用推進事業におきまして、同様に2164万5000円、市役所RE100推進事業におきまして、区庁舎LED化に係る工事費の減に伴い1771万1000円、4ページにお進みいただきまして、地球温暖化対策実行計画推進事業におきまして、委託料等の減に伴い1201万5000円、集合住宅再生可能エネルギー電気導入促進事業におきまして、補助対象事業費の減に伴い900万円、それから新たなグリーン社会推進事業におきまして、委託料の減に伴い600万円、次世代型太陽電池活用推進事業におきまして、委託料等の減に伴い280万9000円を、5ページにお進みください、仮称旧上瀬谷通信施設公園整備事業におきまして、国庫補助事業の認証減に伴い1億5006万6000円、旧上瀬谷通信施設地区周辺道路整備事業におきまして、同様に5億994万円、市街地開発事業費会計繰出金におきまして、旧上瀬谷通信施設土地区画整理事業における公債費等の減に伴う繰出金として2761万2000円、それぞれ減額いたします。

6ページにお進みください。

これまで御説明をした内容につきまして、補正額及び補正額の財源内訳などを款項別に記載してございません。

また、7ページから8ページにかけては、各事業の補正額の内訳等を記載していますので、こちらは後ほど御確認ください。

それでは、9ページにお進みください。

(3) 市債の補正についてでございます。

脱炭素推進費など4事業費につきまして、国補正予算などを踏まえた施設整備や整理補正の状況を反映し、市債発行限度額を補正いたします。

10ページにお進みください。

(4) 繰越明許費の補正についてでございます。

市役所RE100推進事業など8事業におきまして、8年度予定工事の前倒し実施などの理由により、合計で101億5900万円の繰越明許費を設定いたします。

11ページにお進みください。

2、市街地開発事業費会計歳入歳出予算補正でございます。

(1) 事業の執行見込みに合わせた整理補正でございますが、ア、事業費の増額補正といたしまして、職員人件費において給与改定等に伴い697万2000円、旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業において、国補正予算による国庫補助事業の認証増に伴い17億7100万円をそれぞれ増額いたします。

イ、事業費の減額補正等でございます。旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業におきまして、国庫補助事業の認証減に伴い26億4522万4000円を、公債費において、発行額の変更等に伴い1億6000万円をそれぞれ減額いたします。

12ページにお進みください。

これまで御説明した内容につきまして、補正額及び補正額の財源内訳を款項別に記載しております。

また、13ページには、各事業の補正額の内訳等を記載してございますので、後ほど御確認ください。

それでは、14ページにお進みください。

(2) 市債の補正でございます。

旧上瀬谷通信施設地区事業費について、国補正予算などを踏まえた施設整備や整理補正の状況を反映し、市債発行限度額を補正いたします。

15ページにお進みください。

(3) 繰越明許費の補正についてでございます。

旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業におきまして、8年度予定工事の前倒し実施等の理由により、128億4500万円の繰越明許費を設定いたします。

説明は以上になります。御審査のほどよろしく願いいたします。

- **大桑正貴委員長** ありがとうございます。説明が終わりましたので、質疑に入ります。
- **宇佐美さやか委員** 質疑というか意見表明させていただきたいのですが、市第146号議案については賛成します。市第137号議案は、旧上瀬谷通信施設跡地と東名高速道路を直結するインターチェンジの整備と、瀬谷駅から同地区をつなぐ新たな交通の整備事業の繰越明許費の補正ということで、こちらは反対をいたします。
- **大桑正貴委員長** 他に御発言もないようですので、本件については質疑を終了し、採決することに御異議ございませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)
- **大桑正貴委員長** それでは、1件ずつ採決いたします。
初めに、市第137号議案関係部分についてお諮りいたします。
採決の方法は、挙手といたします。
本件については、原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。
(挙手)
- **大桑正貴委員長** 挙手多数。
よって、市第137号議案関係部分については原案可決と決定いたします。
次に、市第146号議案関係部分についてお諮りいたします。
本件については、原案のとおり可決することに御異議ございませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

- 大桑正貴委員長 御異議ないものと認め、市第146号議案関係部分については原案可決と決定いたします。



◎ 横浜グリーンエネルギーパートナーシップ事業について

- 大桑正貴委員長 次に、報告事項に入ります。

初めに、横浜グリーンエネルギーパートナーシップ事業についてを議題に供します。

当局の報告を求めます。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 横浜グリーンエネルギーパートナーシップ事業につきまして御説明をいたします。

資料2を御覧ください。1ページにお進みください。

1、事業概要について、改めて御説明をいたします。

本事業では、家庭向けに太陽光発電設備等の導入支援を行い、省エネや再エネの創出と活用を促進するとともに、設備導入により削減されたCO₂を市内で開催される大規模イベント等で活用することで、市民の皆様と連携し、さらなる行動変容につなげることを目的としてございます。

中ほどの図は、事業の流れを示してございますが、その概要図でございます。対象設備は、①の太陽光発電設備から⑥右下でございますが、V2H、ポイント交付といたしまして、設備を導入いただいた方々へキャッシュレスポイント及び商品券による還元を実施しました。

2ページにお進みください。

実施結果でございます。

1、申請受付期間は、令和7年7月31日から12月22日まで、(2)申請件数ですが1151件、(3)ポイント交付件数でございますが、1月31日現在でございますが940件でございます。

なお、2月12日で集計をしておりますが、2月12日時点では1031件となっております。

設備ごとの内訳は表のとおりでございます。

また、(4)申請額は1億2283万円、ポイント交付額は、1月31日現在で9964万円でございます。こちらも2月12日現在での集計におきましては、1億899万円となっております。

(5)想定年間CO₂削減量でございますが、約600トンと推計しております。これは、杉の木約6.8万本分の吸収量に相当いたします。

3ページにお進みください。

アンケート結果でございます。

本事業につきまして、満足、やや満足との回答が約90%、設備導入に影響があったとの回答が約85%、さらに、脱炭素に向けた行動について、今後、取組を行いたいという回答が98%にも上りました。利用された方々の声といたしましては、ポイント還元は助かる、あるいは、何かに貢献したい人の後押しになるなど、評価する声や継続を希望する声を頂いております。一方で、申請手続が複雑だ、あるいは、対象設備を拡充してほしい、こういった要望、改善を期待する声もございました。

4ページにお進みください。

今後の方向性でございます。

(1)令和8年度も設備導入支援の実施計画を予定してございまして、現在、予算案の御審議をいただいているところでございます。主な改善点といたしましては、先ほどのアンケート結果を踏まえまして実施時

期の早期化、手続の簡素化、対象設備の拡充、この3点につきまして、市民の皆様から頂いた御意見を踏まえてしっかりと検討していきたいと考えています。

また、(2)本事業で創出される環境価値のクレジット化の手続は、令和8年度から進めてまいります。説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

- **大桑正貴委員長** ありがとうございます。報告が終わりましたので、質疑に入ります。
- **市来栄美子委員** ありがとうございます。本事業は、本市の令和8年度予算案についての60ページにも掲げられております家庭向け太陽光発電設備等の導入支援を行うとあり、家庭のカーボンニュートラルを進める事業であると大変期待をしております。令和7年の実施においては、申請件数が1151件とのことでしたが、こちらの内訳に関しては、公共事業、中小企業、集合住宅などの一般家庭などが考えられるのですが、この件数の内訳を教えてくださいと思います。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長** 先ほど局長のほうからも今現在の1031という数字が出されたのですけれども、1031は、ほぼ集合住宅じゃなくて戸建ての家庭ということで、今、内訳のほうは、分かっている範囲では、ここに書いてある交付件数、329、494とおのおの書いてあるのですが、これを全部足した数字が1031になっていまして、精緻な数値は、これから出していかうかなと思うのですけれども、このバランスというのは、ほぼ変わらないと考えていただければと思います。
- **市来栄美子委員** ありがとうございます。家庭への普及というところで非常に脱炭素への鍵になってくると思っております。市民への周知が鍵になってくると思いますので、どのように本事業を周知しようとお考えなのでしょうかというところを、GREEN×EXPOですとか今後の周知の仕方について教えてください。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長** 広報よこはまとか、そのほか実は、神奈川県と来年はさらに連携をして、県と一体となってパンフレット等を作って広報をして、県と横浜市の助成金、両方取れるようにしていきたいということが1つと、もう一つは、事業者、特に太陽光設置事業者のほうには、事前にチラシ等を配りまして広報を進めていきたい、そう考えております。
- **市来栄美子委員** ありがとうございます。GREEN×EXPO 2027への出展ですとかアピール方法ですとか、また、子供たちが非常に脱炭素ということに関しては興味があって、大人の私たちよりも一歩先に進んでいるのではないかなというふうな感じをしております。例えば教育委員会と連携しながら子供たちの絵画コンクールですとか、こういった事業での創造的などころをやってみてはいかがかなと思うのですけれども、その辺り、どのようにお考えでしょうか。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** GREEN×EXPO 2027におきましては、まさしく脱炭素、サーキュラー、こういった取組をしっかりと発信していくということで今取り組んでいるのですが、今、委員からお話があった教育委員会とも教育プログラムということで、次世代を担う子供たちがしっかりと脱炭素社会、新たなグリーン社会に向けた取組というものを理解いただき、あるいは参加いただくというのを非常に大切にしたいと思っておりますので、そういう取組を、準備を、今、始めておりますので、しっかりそういうところでもPRしていきたいと思っております。
- **市来栄美子委員** ありがとうございます。市民が自分事と捉えて参加促進できるためには、本事業による再エネ導入、エネルギー、年間CO₂削減量を市民に分かりやすく公表する例えばダッシュボードなどを設けても面白いのかなと思うのですけれども、GREEN×EXPOの日数まであと400日を切ったですとか、そういうのが分かるダッシュボードのように、本事業によってダッシュボードを設けることによって、市民がもう少

し本事業を身近に感じていただけるようなふうにはいかがかしらと思うのですけれども、その辺り、どのようにお考えでしょうか。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** ありがとうございます。私もそこは、非常にこれから大切だと思っ
ていまして、それは、まずは、2030のハーフカーボンを我々は目指さなきゃいけないと。そこに向けては、ど
れほどの実績が上がっているのかというのを、予算研究会等でも委員の皆様方から御意見いただいております
が、しっかり我々もダッシュボードのように示しをして、そして、どれだけ進んでいるかというのをみんな
が実感できるようにしていかなきゃいけないと私も考えておりますので、これは、しっかり今後、どう
いうことで皆様にお知らせできるのか、あるいは、共感をいただけるのかということも工夫しながらやって
いきたいと思えます。
- **市来栄美子委員** ありがとうございます。本事業は、市民参加型の脱炭素政策として発展し得るポテン
シャルが非常にあると思っております。単なる導入支援にとどまらず、横浜モデルとして進化させるために
今までの課題点、申請の複雑さとか、それを簡素化するというふうには先ほどおっしゃっていただきましたけ
れども、横浜モデルにしていけるような、家庭でのCO₂が一番多いというところですので、一歩踏み込んだ
戦略的な展開をしていただければと思います。大丈夫です。
- **大桑正貴委員長** 御意見ということで。
- **宇佐美さやか委員** 今後の方向性として、先ほどの委員からもありましたけれども、来年度も実施する方
向性ということなのですけれども、実施時期の早期化というのは、いつ頃が最適と認識されているのでし
ょうか。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長** 今のところは、6月上旬ぐらいにはスタートを切りたいなと思ってい
るところです。
- **宇佐美さやか委員** 6月上旬に申請をしてすぐ手続する、簡略化していくというふうには書かれてい
るのですけれども、すぐ買って戻ってくるという手続ができるものなのですか。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長** この手続の簡略化というところは、今年度は市民だけが申請できたので
すけれども、今度は、太陽光を設置する実際の事業者が代理でも申請できるようになりますので、スピード感
は出るんじゃないのかなと思っております。
- **宇佐美さやか委員** つけてくれる側、事業者、設置する側が手続するということは、買われる方は、何の
手続もしなくていいということですか。事業者さんとのやり取りだけで済むということなんでしょうか。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長** 個人情報等、出さないといけないものは、事業者のほうに出していただく、
そういった形になるかと思えます。
- **宇佐美さやか委員** それが簡略化という中に含まれているという認識ですか。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長** 市民だけだと一回しかやらない申請なので、事業者だと何十件もこなして
いるのでスピード感は出るのかなと、そう考えております。
- **宇佐美さやか委員** 事業者さんにとっては、手間になってしまうということもあると思うのですけれども、
市民の皆さんにとっては簡略化、本当に簡単に申請できるようになっていいかなと思うのですけれども、大
規模イベントでクレジットが使われるということなのですけれども、この大規模イベントというものを、今
後、規模感ですとか、どれぐらいの回数が開催されるものなのかって、それによっては、貢献しているとい
う思いになるのかならないのか。でも、自分のところに返ってくるものとしてはポイントになる中で、エネ

ルギーとしては大規模イベントで使われる。自分が何かに貢献しているなって思えるためには、毎回、毎週のように行われているとかっていうんだったら貢献したかなと思えると思うのですけれども、その辺りはどうなのでしょう。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** 今、委員がおっしゃられたいろんなやり方があると思うのですが、我々、一番大きいのは、市民の皆様方に興味を持って御参加いただくという大きなイベントとして、まずGREEN×EXPO 2027がございまして。これは2年後ということになるのですけれども、そういった大規模イベントは、しっかりと市民の皆さんが貢献しているということを実感いただけるように取り組んでいきたいと思っております。また、それは、大規模イベントの一例でございまして、GREEN×EXPOは1回でございまして。それ以外にも横浜市内では、非常に多くのイベントを年間を通してやっていますので、そういったイベントをチョイスしながら、しっかりと市民に実感をいただけるような形で組んでいきたいと考えています。
- **宇佐美さやか委員** まだこれからというところでとかというのが模索していく段階ということですか。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** そのとおりでございまして、イベントは数々ございまして、理想を言えば、全イベントでそういうことができるようになればいいのですけれども、この辺はクレジットとの関係もございまして、その辺を見合いながらどういったイベントでどういうふうにできるのか、これをしっかり考えていきたいと思っております。
- **宇佐美さやか委員** 今、局が変わってしまうかもしれないのですけれども、にぎわいさんでやっているような夜の予算とか、横浜市民が、本当に自分が貢献しているって思えるイベントに、そういうところにこそ使っていただきたいと思っておりますので、そこは、ぜひちゃんと精査していただきたいと思っております。
- **久保和弘委員** この事業は、再生可能エネルギー設備の導入というところで、CO₂を減らしていく中で、市内のカーボンオフセットに活用していくという取組で、様々、興味深いところがあるかと思うのですけれども、2ページにありますとおり、申請件数が1151件ということでした。また、ポイント交付件数も866件とありましたけれども、これは目標に対してどうだったのかということと、予算に対してどのように執行したといいますか工夫して臨んだのかということ、そこを事業の結果として教えていただきたいと思っております。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長** この時期、先ほども議論がありましたけれども、最終的には、何トン削減するというのが一番の軸かと思っております。1年前の目標も、年間のCO₂の削減量は600トンを目指してやっていたので、今回、ほぼ600トンいけたんじゃないのかなということで、そこは、当初予定どおりということですか。
- **久保和弘委員** 件数的には下回ったけれども、数字的な目標としては、クリアする部分があったということで理解いたしました。先ほどこの改善点といいますか方向性という中で、実施時期の早期化と、あと手続の簡略化というのがありましたけれども、気になりましたのは、対象設備をいかに拡大していくかということも一つあるかと思うのです。現行、太陽光発電とか蓄電池のセットで行っていくとか、あるいはエコキュート、電気自動車ということで、様々その他もありますけれども、どのように対象を拡大するかということについて確認させていただきたいと思っております。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長** 対象の拡大ですけれども、まずは太陽光ではなく太陽熱システムを入れたことと、あとは、EVだけでなくプラグインハイブリッド、これも入れました。それと、エコキュートが今まで限定的なエコキュートだったのですけれども、エコキュートの種類を拡充するというところでメニュー

を増やしております。

あと一つ、先ほど600トンの目標感のところ、トン数は確かに600トンで目標どおりだったのですが、件数は、当初は1340件を目標にしていた中、大体、今は1050件ぐらいということなので、件数自身は、達成はしていないのですが、削減量といった面では、当初予定どおりということです。

- **久保和弘委員** 先ほど御答弁を聞く前に、目標数は事前に承知していたものですから、自分の中で●と言ってしまったのですが、削減量は増えたということで、改めてそこは評価できる点だと思います。要は、市民の皆様、また事業者の皆様が制度を分かりやすくこういうものがあるんだという上で、できるだけ手続も簡素化して、対象がこれだけ増えたということで、その実効力、ここをしっかりと増やしていただきたいということをお願いしておきたいと思います。よろしくお願いします。
- **こがゆ康弘委員** ありがとうございます。本市のCO₂削減量は、家庭部門がなかなか減らないというか大きいのですが、この家庭部分をどうやって減らすかというのは、非常に重要な課題だと思います。そんな中で、省エネ設備等の導入のインセンティブになるこういう事業というのは、非常に有効かなとは思いますが、その前提で何点かお伺いしたいのですが、まず、申請件数に対してポイント交付件数というのが下回っているのですが、何か理由があってポイント交付に至らなかったということなのか、その差について教えてください。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長** 申請をして、その後、設置して完了しないと助成金は払えないのですが、申請はしたものの、やっぱり今年はやめて来年に回すとか、そういった方も数名出られておまして、今回、確実に設置完了した人というのは、不備があった場合にはこちらから何度もフォローをして、ほぼ100%に近い形で助成金は返しているのですが、初めの申請件数と、それから最後の交付件数というのは、実際につけていないという数だと我々は承知しております。
- **こがゆ康弘委員** 申請はしたけれども、最終的につかなかったということなのですか。それならしょうがないのですが、そういうことなのですね。分かりました。

あと、今後の方向性の中で、対象設備の拡充ということで、先ほど太陽熱とかPHVとかという話がありましたが、支援額についてなのですが、今、この前のページを見ると、例えば蓄電池は15万円なのです。

でも、蓄電池をつけるのに約100万ぐらいかかるので、それに対して15万の補助ということになるのですが、これは件数を増やしたり、あるいは想定年間削減CO₂量を増やすためには、もっと多くの方にこの制度を利用していただく必要があると思うのですが、そのためにも、支援額というものも、それぞれの機器というか、それに応じていろいろと考える、要するに増やしていくということも方法論としてはあるかなと思うのですが、その辺のお考えを伺いたいです。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** 我々も、先ほども申しました2030年のまずハーフカーボンを達成、それから、その先、2050年のゼロカーボン実現、こういうことを考えますと、今、こういう形でやっていますが、委員御指摘のとおり、これをどう拡大できるのかというのは、件数と総予算額も、限りなく我々は市税があるわけではございませんので、その辺の見合いを十分研究をして、しっかりCO₂の削減効果が上がっていくようなやり方というのを我々も模索しながらやりたいと思っていますので、今現在、答えとしてこれがベストということはないのですが、先ほど申しましたようにダッシュボードではないのですが、これからどれだけCO₂を削減していくかという見える化をする中で、我々もこういったところでそこに落とし込みながら、どうしていったらいいかということをしっかり研究してやっていきたいと思っています。

- **こがゆ康弘委員** 件数は増えたほうがいいですし、600トンということを経年維持するのではなくて、もう少し上げていくという方向性もあるかと思うので、そういった工夫をお願いしたいと思います。今後、600トン、CO₂が削減されたのですが、それを来年度以降でしようか、クレジット化をして、最終的には、大規模イベント等に使う電気とオフセットするということになるかと思うのですが、クレジットを売るということになるのです。そうすると、600トンのクレジットって大体どのぐらいになるのか、これは分かりませんか。幾らぐらいなのかということ。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長** 相対契約になるので、幾らという断定的なことは言えないのですが、例えば再生可能エネルギーの環境価値だと、1トン当たり5000円とかそういった桁の数字になると思うので、600トンあればそれ掛ける。
- **こがゆ康弘委員** 300万ぐらいってことですか。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長** 5000円とかそういった形になるのかなと思っています。ただ、そのイベントによっては、例えばトライアスロン等だと、参加者からあらかじめオフセット料、例えば500円を事前に頂くということになっていたりすると、それ掛ける参加者分ということになるので、一概に何円で売るというのは、決められてはいないです。今のところ再生可能エネルギーのクレジットだと、4200円ぐらいが直近のトン当たりの金額かなと思っています。
- **こがゆ康弘委員** 4200円で600トンなので、250万とかそんなもんなのですよね。1年間通してこの事業をやって600トン、いや、すばらしいですねということなのですが、J-クレジット換算だと大体そんなもんなのです。今回の事業費は、ポイント交付額9000万くらいになっているので、それに対して売却が二百何十万ということなのです。これは、今後の行動変容につなげるということですから、その価値というのは、値段ではかるわけにはいかないのですが、とはいえ9000万、私費を投入してそういうことになったということに対してどのようにお考えなのか。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** これは、先ほどとも共通するのですが、我々としては、環境価値、環境行動、これを進めるといって価値が幾らかははかれないのですが、まずはそこを進めたい。これは、お金でペイをしようとする、環境というのは、我々ビジネスではございませんので、全てを回収するというのは難しいと思っています。したがって、市政を推進する、あるいは、地球環境に貢献するということをにらみながら、この効果というものが最大限上がるようにやっていくというところで、バランスを見ながらやっていくしかないのかなというふうには、私は考えております。
- **こがゆ康弘委員** おっしゃるとおりで、これから目標達成に向けては、かなり様々なことをやらなければいけないのですが、それには予算もかかることで、どれだけの予算をかけてCO₂を削減しているか、目標であるカーボンオフセットに向けていくかというのは、しっかりと考えていかなければいけないのと、横浜市としては、できるだけ低い予算でCO₂削減の成果が出るような事業を行っていかなくちゃいけないので、そういう意味でこの事業も方向性はすごくいいと思いますけれども、実態としてはこうなんだということを知りたくて、じゃあ別の方法は何かあるでしょうか、家庭部門のCO₂削減で、それほどの予算を伴わないものというのも含めていろいろ検討していただければと思いますので、よろしくお願いたします。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長** すいません。2点補足させていただきたいのですが、今回のクレジットというのは、単年で見ると例えば300万円なのですが、これは8年間バンキングできるので、掛ける8ということになりますので、300掛ける8年分売却できるというのが1つと、それからもう一つは、

蓄電池の件なのですけれども、委員がおっしゃられるとおりに蓄電池は100万円ぐらいするので、横浜から15万円、合わせて神奈川県からも15万円出るので、3分の1程度は助成が出るというそういった形になっております。

- **大桑正貴委員長** 他によろしいでしょうか。
(「なし」と呼ぶ者あり)
- **大桑正貴委員長** 他に御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。



◎ 寄附受納について

- **大桑正貴委員長** 次に、寄附受納についてを議案に供します。
当局の報告を求めます。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** 寄附受納につきまして御説明をいたします。
資料3を御覧ください。
1の地方創生応援税制、企業版ふるさと納税を活用した寄附でございます。
寄附者は、1ページから3ページまで記載してございます。合計23社、受納金額及び受納日は、資料のとおりでございます。受納目的は、いずれもGREEN×EXPO推進事業のためでございます。
説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

- **大桑正貴委員長** 報告が終わりましたので、質疑に入ります。
(「なし」と呼ぶ者あり)
- **大桑正貴委員長** 特に御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。
以上で、脱炭素・GREEN×EXPO推進局関係の審査は終了いたしました。
本日の審査は全て終了いたしましたので、委員会報告書を議長宛てに提出いたします。



◎ 閉会宣言

- **大桑正貴委員長** 本日の議題は全て終了いたしましたので、委員会を閉会といたします。

閉会時刻 午前10時36分